

## 口頭陳述

お早うございます。只今紹介頂きました百道浜校区自治連合会のご  
でございます。港湾局の説明会から請願の締め切りまで期間が  
なかったため、請願書の署名は自治協議会の役員 25 名中の 21 名で  
ございますが、その後同様の趣旨で正月明けより校区の約 8000 人の  
住民に対し自治会を通じて署名活動をしてまいりました。今日、そ  
の地域住民を中心とした約 5000 人の署名者の願いとして口頭陳述  
させていただきます。

私たち、百道浜住民は、福岡市がつくったすばらしい素晴らしい  
住環境に魅せられて、多くの資財を叩いて、永久の住みかとして百  
道浜に移り住んできました。そのまちづくりのコンセプトでは、対  
象地は子どもたちの歓声の聞こえるコミュニティの中心となる中学  
校予定地でした。時代の趨勢と福岡市の財政状況から対象地の売却  
はやむえないとしても、地元では、マンションを含め法律の枠内の  
用途で幅広く良い提案ができることを期待していました。港湾局は、  
公募要項でその用途を強引に、教育、福祉その他付随する施設に限  
定し、しかも住民が期待した特別養護老人ホームや老健施設等の福  
祉施設を対象外としました。その結果、18 社が応募要綱を取りに来  
たにもかかわらず、応募したのは、以前から噂のあった高木グルー  
プ 1 者になりました。しかも、提案内容は、福祉施設というより大  
病院が延べ床面積の 2/3 以上を占め、巨大な駅のような圧迫感のある  
建物です。住民が戸惑い、住民の代表として行政のチェック機能を

果たされる、市議会の先生方のお力添えを頂きたく請願に及んだし  
だいです。

請願の内容は、お手元の資料のとおりでございますが、わたしど  
もは、決して無理難題を言おうとしているではありません。戸惑  
いながらも、事業予定者の存在を認めながら誠実に協議をして頂く  
場を処分にあたっての文言上の確約をいただきたいのです。

先日の22日に高木グループの方が初めての地元の説明会に来ら  
れましたが、請願書の1項目の医療施設の内容については、十分な  
説明をいただけませんでした。そしたら、その翌日に西日本新聞に  
福岡中央病院が6倍に拡大して移転する記事が既定事実のように載  
りました。地元の医療関係者は不安に思うと共に、私たち住民も今  
後の協議の多難さを予感させられました。そこで、早く実のある話  
し合いを事業予定者としていくため、請願内容の採択を本日して頂  
きたくお願い申し上げます。

また、この間の説明会や地元での大きな関心となっております以  
下の2点についても先生方のお力をお貸し頂きたいと思えます。

病院の病床は、高木グループもいっているように199床以上増  
床しないことを文書で確約して頂くこと。それを前提として、  
医療の専門化集団である医師会の場で保健福祉局の保健医療部  
を第三者の調停者として協議を進めさせていただくこと。

大規模病院の患者や1000人の学生による交通渋滞、自転車、  
バイク等と通学路の交差による学童の安全性や違法駐輪やごみ

散乱等のマナーの問題等の地域の環境問題についても自治連合会と協議いただくこと。

以上宜しくお願いします。なお、西日本新聞の誤報記事への抗議やこの審議の様子は、その後記者会見をし私たちのホームページ「百道浜 WEB」で報告させていただきます。これで、口頭陳述を終わります。